

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 18
2017. 10

TOPICS

1

平成29年度秋季 岡山大学入学式、大学院入学式を挙

本学は10月14日、秋季入学式を創立五十周年記念館で挙りました。10月からスタートしたグローバル・ディスカバリー・プログラムの31人を含む、計113人の新生が、大学生生活の第一歩を踏み出しました。

榎野博史学長による式辞では、「榎野ビジョン」で掲げている「しなやかに超えていく『実りの学都へ』」について触れ、「新生の皆さんとともに、実りの学都を創り上げていくことを期待しています。皆さんは新しい門出に立っています。一步前に踏み出し、新しいことに挑戦してください」と英語で祝福しました。

新生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのペトロヴィック ステファニー リンさんが「これから始まる学びに期待し、岡山大学の一員になったことへの喜びに満ちあふれています。歴史と伝統ある岡山大学で、課題に真摯に取り組み、社会に良きインパクトを与えられるよう、最大限努力していきます」と英語で宣誓しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7035.html

名古屋大学との 大学間協定調印式を開催

TOPICS

2



名古屋大学と本学は9月29日、革新的ながん治療法である「ホウ素中性子捕捉療法」(BNCT)の実用化に向け、大学間協定を本学津島キャンパスで締結しました。

名古屋大学の松尾清一総長を招いて開催した調印式では、松尾総長と榎野博史学長が協定書に署名し、笑顔で固い握手を交わしました。榎野学長は「これまで治療が困難とされてきた悪性の腫瘍に対する治療法としてBNCTが注目を集めており、今後、さまざまな種類のがんへの適用が期待される。両大学の共同研究をさらに推し進めていきたい」と述べました。

名古屋大学と本学とは、今後さらに共同研究を推進し、国際原子力機関 (IAEA) や他の研究機関とも連携してBNCTの世界標準の確立を目指します。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7028.html

最近の大学の取り組み

岡山大学広報「いちよう並木」10月号を発刊



本学の活動などを紹介する広報誌「いちよう並木」の2017年10月号(87号)を発行しました。

今号では、「植物は小さな宇宙」をテーマに、「光合成の世界」と「植物生存メカニズム」について、研究室の最前線で日々研究を重ねる研究者たちの声に迫ります。その他、復興ビールで被災地の力になろうと地域で連携している取り組みのご紹介や、岡山大学の歴史をひもとくコーナー、学都基金のご紹介など最新の情報が盛りだくさんです。ぜひ、ご覧ください。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/kohoshi2017/icho_87.pdf

「高度実践人」の認定証を授与

本学では、実社会で適切な判断をくだすことができる能力を持ち、世界で活躍できる「高度実践人」を全学部から82人選出しました。その代表として特に評価の高い5人の学生に対し、10月10日、榎野博史学長による認定証の授与を行いました。

授与式後に行われた懇談では、榎野学長から「皆さんには岡山の代表として、実践の現場でグローバルに活躍していただきたい」との激励があり、学生からは「インターンシップや留学での経験をもとに、それぞれの分野でグローバルな視点を持って社会に貢献したい」との決意が語られました。

「高度実践人」は、教養科目や専門科目の学修成果と実践経験、海外経験などを指標化し、実践の現場で役立つ実践人を認定する制度です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7032.html



本学同好会がダブルダッチの中国・四国・九州大会で優勝



2本の縄跳びを使ってパフォーマンスを競う「ダブルダッチ」の中国・四国・九州地区大会が9月10日、岡山市内で開かれ、本学の同好会「Jumping Cats (ジャンピングキャッツ)」のチームがオープン部門で優勝しました。

本大会は1チーム6人以内で、オープン部門は半数以上が学生という規定。同部門には4チームが参加し、約300人の観客を前に、音楽に合わせて2本の縄を跳んだり、アクロバットやダンスなどのパフォーマンスを披露しました。

優勝したのは「Jumping Cats」のメンバーで構成した「Avoir (アヴォアール)」というチームで、10月15日に東京で開かれる全国大会への切符を手に入れました。

同チーム代表の三谷達輝さん(経済学部3年)は、「3月の大会が散々な結果でチームは一時最悪な状況だったが、話し合いを重ねるなどして乗り越えることができた。完璧なパフォーマンスでの優勝ではなかったが、全国大会ではパ

フォーマンスに磨きをかけ、自分たちのできることをすべて出し切りたい。支えてくださったすべての方々に感謝するとともに、自分たちのパフォーマンスを通じて西日本では発展途上なダブルダッチの知名度を高めたい」と話しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7024.html



遺伝子を操作する“人工転写因子”でがんの増殖を阻害

岡山大学大学院自然科学研究科(工)生体機能分子設計学研究室の世良貴史教授、森友明特任助教らの研究グループは、川崎医科大学の猶本良夫教授、深澤拓也准教授との共同研究により、がんの遺伝情報のひとつである「がん増殖遺伝子」を読めなくする、テラーメイドの人工タンパク質『人工転写因子』の開発に世界で初めて成功しました。この人工転写因子は、世良教授が開発した、標的のがん増殖遺伝子に特異的に結合する人工DNA結合タンパク質に、遺伝子を読めないようにするタンパク質を融合させた人工タンパク質です。本研究成果は10月5日、がん治療分野の総合科学雑誌「Oncotarget」のオンライン版に公開されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id506.html



糖尿病治療薬メホルミンによる制御性T細胞の抑制効果を発見

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科免疫学分野の鶴殿平一郎教授、榮川伸吾助教と口腔顎顔面外科学分野の佐々木朗教授、國定勇希大学院生の共同研究グループは、2型糖尿病治療の第一選択薬であるメホルミンが、がん局所に存在する制御性T細胞の増殖と機能を抑制することを明らかにしました。本研究成果は10月15日、Cell PressとThe Lancetのパートナー科学雑誌「EBioMedicine」のResearch Article (Online版)として掲載されました。

がん局所に浸潤した制御性T細胞は免疫細胞の一種ですが、がん細胞を攻撃する細胞傷害性T細胞の機能を抑制することが知られています。メホルミンによる制御性T細胞の抑制効果は、がんに対する免疫作用を増強することにつながり、がんの免疫治療に貢献できる可能性が明らかになりました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id507.html

